

南の風



柏市立風早南部小学校

校長 伊藤 喜美子



<学校教育目標>

『自ら考え判断し、
表現する子』

【目指す児童像】

- 自ら考える子
- 自ら判断する子
- 自ら表現する子



柔らかな若葉が目には鮮やかな季節となりました。校庭の木々も青々と勢いよく伸び、子どもたちを優しく見守ってくれているかのようです。新年度がスタートして1カ月。南部っ子たちは、元気いっぱい学校生活を送っています。新しい学年や学級に慣れてきて、友だちも増えてきたころと思います。仲間と協力し、助け合って活動することの素晴らしさを伝えたい、という思いから、先日の全校集会で、谷川俊太郎作『ともだち』という絵本の読み聞かせから次のような話をしました。



みなさんは、『ともだち』の絵本を聞いて、どんな感想をもちましたか？ 学校や学級には走るのが速い人、絵を描くのが上手な人、にぎやかな人、静かに過ごすのが好きな人、などいろいろな人が集まって「みんなが成長していけるように」協力して生活するところが学校であり、学級です。ですから、自分のことばかり考えずに、相手のことを思いやって生活することが大切になってきます。みんなで生活する場では「自分がされて嫌なことはしない。」

「友だちが悲しい思いをすることはしない。」と相手の立場になって、思いやりをもって行動してほしい、と話しました。

どうしても人は、自分の考えや感じ方をもとにして自分のことだけを考えてしまうことがあり、相手を傷つけてしまうこともあるかと思います。そんな時は、自分の間違いや失敗を心から謝り、2度と同じことを繰り返さないことが大切です。

今月は、運動会も予定され、学校や学年・学級で一致団結して活動する場面が多くあります。仲間と協力し、一つのことに仲間と一緒に、何かを成し遂げた達成感を味わえるように、子どもたちを見守り、励ましていこうと思います。引き続き、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

『ともだち』

谷川俊太郎 作

ともだちってなぜがうつつでもへいきだって
いってくれるひと。
ともだちっていっしょにかえりたくなるひと。
ともだちってみんながいっちゃったあとも
まってるひと。(中略)
しかられたともだちはどんなきもちかな。
なかまはずれにされたらどんなきもちかな。
しっばいをわらわれたらどんなきもちかな。
ないしょばなしをされたらどんなきもちかな。
やくそくをやぶられたらどんなきもちかな。(中略)
すきなものがちがってもともだちはともだち。
ことばがつうじなくてもともだちはともだち。
としがちがってもともだちはともだち。(中略)
だれだってひとりぼっちではいけてゆけない。
ともだちってすばらしい。(以下略)

